

# 創作民話マップ

# 創作民話マップ

マップ絵 - 後藤 祐次



# 執筆後記

先輩はそう言って、  
ポケットからスマホを取り出した

山田 茉里奈

高校生の時から憧れていた『尾道草紙』に参加することができて、とても光栄です。  
私の作品は今回の『尾道草紙』の中で一番短く、本文は会話のみで構成されています。また舞台となった場所を明示していません。尾道をよく知っている方もそうでない方も、尾道の街を歩いた際にこの作品をふと思い出し、「二人が会話していたのはこの道かな」と想像して楽しんでいただけると嬉しいです。



絵・平華乃

この度、挿絵を担当する機会をいただきましたことを、この場を借りて感謝いたします。明るく元気な先輩の男の子と、先輩よりも落ち着いている後輩の女の子。二人の微笑ましいやりとりから感じられた距離感を一枚絵に表しました。背景は、彼らが登る道のイメージです。二人に尾道の桜の如き春が訪れんことを願っています。

虹のたもとで

安部 紗弥香

尾道草紙、初めて見たのは高校のときでした。受験のために尾道へやってきて、大学案内で尾道草紙の存在を知っていたので、店頭で見つけたときは大はしゃぎしたことを今でも覚えています。  
そんな尾道草紙に今回載せていただいたのは、龍神と女の子のお話です。ほとんど出てきませんが、女の子のお父さんが好きです。たくさん指導していただいて、何とか形にすることが出来ました。  
力不足ではありますが、ほんの少しでも、誰かの心に残るような物語となつていれば幸いです。



絵・姫野 七海

尾道草紙のことは入学前から知っていたため、今回挿絵という自分の好きな分野で携わることができ大変光栄に思います。尾道ならではの島々や水道が舞台のお話ということで、制作を通し改めてその魅力に気づく機会にもなりました。

雨とアジサイ

檜山 奈由

この話は、実際にアジサイが綺麗な時期に持光寺を訪れた時のことをもとに作りました。あの日もちょうど大雨で、石門の先では青や紫、とにかく色とりどりの花が迎えに来て、とても感動したので覚えています。  
アジサイの花言葉の一つに、「辛抱強い愛情」というものがあるそうです。これは、辛抱強く、深く、あなたを想っていますという気持ちが含まれている言葉です。そのあたたかく、少し切ない愛を、作中の夫婦のやりとりからも感じ取ってくださいたら幸いです。



絵・伊東 桃奈

このお話を讀んだ時に感じた、二人の大切な時間の輝きが伝わるように、と思いながら描きました。このような素敵なお話に出会えたこと、また挿絵担当として携われたことを光栄に思います。ありがとうございます。

よるのはなし



見谷 香乃

皆さん、きれいなものは好きですか。私が尾道に来て一番おどろいたことは、雨さえ降らなければ、テレビで見られるような星空を毎日見れることでした。あんまり綺麗で、勉強やバイトの疲れが空を見ただけで吹っ飛んだ。このお話は、その感動を皆さんに自慢するために書きました。今回お話を読んでくださった方々が、ものの美しさに気づけるような、安らかな日々を過ごされることを祈って。

その夏



谷坂 利香

なんとか今年中に、と突き動かされるように描きました。いろいろなことがあった夏。尾道の人々がどのように過ごしたか取材し、ときに想像を膨らませながら言葉を紡いでいきました。大雨の後の濁った水源池で日光浴をする亀たちや、給水に並ぶ人々。感情を揺さぶられることも、多かったです。何かを失って、それでも歩いていく人々に少しでも届くと思います。

絵・斎藤 七世

ストーリーが断水の時期ということで、去年の七月を思い出しながら描きました。このような素敵なお話の挿絵を担当出来て嬉しかったです。ありがとうございます。

在りし日の夕暮れ



石原 遼一

生きてる限りいつだって何かにがんじがらめにされるほかないのですが、夕暮れに見惚れる瞬間だけ、すべてから解放されます。もしそんな幸福な一瞬を永遠のものにできたら、人は何を感じるだろう、と考え始めたのが、この作品を書いたきっかけです。挿絵を担当してくれた山根くん、また編集の皆様、本当にお世話になりました。ありがとうございます。

絵・山根 翔

挿絵という初めての経験をしたことにより、学ぶことの多い貴重な時間を過ごすことが出来た。この居心地のよい尾道の情景を文章と絵の合作によって、普段の印象と違う尾道の姿が表現できたのではないのかと思います。

約束の日



則直 真衣

尾道のどこを舞台に作品を書こうか。そう思いながら散策していたところ、「八幡神社」と彫られた石柱が目が止まりました。大通りから外れた石畳の道。道脇に構える鳥居。大きな門。その先の国道。国道の先の線路。線路のすぐ先にある神社。境内の中にある力石。「八幡神社」を取り巻くすべてが、新鮮なものばかりで驚いたことを覚えています。この神社の独特な雰囲気を描きたい、という思いからこの物語が生まれました。少しでも楽しんでいただければ幸いです。

絵・今井 ゆめ

今回描いた画がお話の表情を豊かに伝えられるものとなっていれば幸いです。尾道草紙の制作に関わられたこと、とても嬉しく思います。

絵・矢川 千陽

夜の静けさや美しさだけでなく、人のやさしさ、あたたかみが伝わるような素敵なお話だと思ひ、何度も読ませていただきました。言葉と絵、表現の方法は違っても、同じ目的や感情を捉えひとつのものをつくることのできる、「芸術の力」を改めて知りました。完成した挿絵が、見谷さんの作品の一助となれば幸いです。